「恍惚の人」的認知症観を変えた世界と日本の当事者たち
～それを支えた黒子たち～

国際医療福祉大学大学院・公開講義
９月１4日（水）
ナビゲーター：馬籠久美子

黒子自己紹介

１９８６　津田塾大学英文科卒業。

１９８７　母校の推薦を受け、米国マサチューセッツ州の私立女子大 スミス・カレッジ日本語科助手
60s：ファーストレディの花嫁学校　⇒70s:フェミニズムの拠点　⇒　LGBTQ＋

１９８９　アメリカ研究プログラム修了。**テーマ：多文化多民族社会、多様性 Diversity『We and They』**

１９９１　マサチューセッツ州立大学・教育大学院（国際教育）修士取得。
『被抑圧者の教育学』の著者パウロ・フレイレの「解放の神学」・識字教育を学ぶ
師との出会い１：**カンボジアのマハ・ゴサナンダ師**（ポルポト虐殺から復興に貢献、コンパッション）
師との出会い２**：ベトナムのティク・ナット・ハン師**（ベトナム和平に貢献、マインドフルネス）

１９９２　同大学院博士課程。アメリカのアリゾナの先住民族の土地でフィールドワーク。
テーマ： 社会的**包摂と**先住民族**自決権　Nothing About Us Without Us !**

１９９４～　帰国以降、通訳・翻訳者として、来日ツアーやTV番組制作に従事。

黒子のつぶやき

・日本最高の黒子的存在、ゆきさんからご依頼をいただくも、他の黒子の都合がつかず、本講を担当

・通訳者はクライアントについて明かさないのが、ルール、礼儀、ときに、契約

・通訳者の心得：「淡々とよどみなく、川の水が静かに流れるように、ありのままに訳す」

・青山 俊董 老師（曹洞宗）の言葉から　「足すな、引くな、乗っかるな」「無というものがある」

・訳す行為は、自分の耳で聞いたことを、もう一度自分の口でくりかえすという、学びの機会

・どうせ訳すのなら、声をあげようとしても聴かれることのない人びとに光が当たり、
解放されるための一助になりたいという、かすかな願い

・黒子が表に出るのは、舞台が終わるとき。- 来年は数えで６０歳、還暦前の境地

世界の認知症当事者活動の今

今年6月、ADI ロンドン2022

今年6月、英国ロンドンで
ハイブリッド開催された
第35回 国際アルツハイマー病
協会・国際会議

Alzheimer’s Disease
International (ADI)
Conference

ADI

国際アルツハイマー病協会。Alzheimer’s Disease International
世界各国の認知症団体の国際的な連合体。（１国地域団体）
WHOと公式に連携。本部はロンドン。
1980年に設立されたアメリカとイギリスのアルツハイマー病協会が母体。「家族被害者」の救済から出発。
日本は「認知症の人と家族の会」が正式加盟団体。
かつては年１回、2018年以降は各年で、国際会議を開催。
当事者理事を採用し、認知症当事者活動も牽引してきた。
2004年、2017年に、日本の京都でADI国際会議を開催。

当事者発表者：丹野智文さん

1974 年宮城県生まれ。東北学院大学卒業後、ネッツトヨタ仙台入社。トップセールスマンとして活躍中の 2013 年、若年性アルツハイマー型認知症と診断される。診断後は営業職から事務職に異動し勤務を続け、現在は認知症への社会的理解を広める活動が仕事になっている。2015 年より認知症当事者のためのもの忘れ総合相談窓口「おれんじドア」を開設、実行委員会代表。精力的に自らの経験を語る活動に力を入れている。著書に『丹野智文 笑顔で生きるー認知症とともにー』（文藝春秋）、『認知症の私から見える社会』（講談社新書）ほか。

主な著書

黒子の心配：現地到着前日のロンドン

https://www.nytimes.com/2022/06/02/world/europe/queen-elizabeth-platinum-jubilee-how-to-watch.html
https://www.arabnews.com/node/2095281/world

さらなる黒子の心配

コロナ感染対策: N95マスク、飛沫データ、保険、友人協力
紛争の影響: 飛行ルート変更、東欧迂回
大幅な円安：参加費、滞在費の高騰
経済制裁：物価上昇、ストライキ
制限解除と人出：英国女王在位７０周年イベント
時差：英国ー日本は特に時差ボケがきつい

会議場：空気感染を認識した換気対策

ジ・オーバル　The Kia Oval 国際競技場

本会議発表

当事者から見た認知症の診断の重要性

（再現バージョン　約１０分）

丹野智文

日本：宮城認知症当事者ネットワーク

主催者につなぐ：理解と協力

丹野さんはいったん招聘されるも、**資金面で英語のみの会議**になると、招聘取り消しの連絡。
そこで、非英語圏のアジア人の若年アルツハイマーの男性が、通訳を通してその声を伝えることは
ＳDGｓ指標を運営方針に取り入れている国際協会が、**多様性、「誰一人取り残さない」
「インクルージョン」**を実践することになる、と説得。資金難、人手不足、コロナ対策の中、
対面での開催を目指す事務局を応援し、黒子が**ADIボランティアスタッフ**として**同行通訳・
参加支援**をすることに決まる。丹野さんの発表は、国際協会の“診断後支援キャンペーン”、
スタンディングオベーションを受けた。

理解者につなぐ：感謝と信頼

ADI議長 デール・ゴールドホーク

カナダ人　社会正義派・“反撃”ジャーナリスト
消費者運動家
クラスター感染した高齢者施設に入るカナダ軍隊に同行取材など

直後に丹野さんに駆け寄り、一言。

「私たちが言ってもらいたいことを**すべて言ってくれた**！できるだけ長く、できうる限り、これを続けてほしい。それが君の“**生きる意味**”になるんだ！」

アドボカシーにつなぐ：参加と伝播

2022年度　世界アルツハイマー・レポート（報告書）

９月２１日　ウェブ公開！

『診断後の人生：治療、ケア、支援をナビゲートする』

世界の当事者につなぐ：励ましと共感

国際認知症当事者同盟（DAI）の英語を話す仲間たちが、
丹野さんのプロフィールと原稿を、事前にチェックしていた！
ダメ出し１：文字は大きく見やすく！
ダメ出し２：ひとつのスライドに、写真は１枚！
ダメ出し３：プロフィール写真はプロが撮ったものがよい

DEMENTIA ALLIANCE INTERNATIONAL

「院内ピアサポートは聞いたことがない。これが知りたい！」

地元につなぎ返す：安心と支え合い

“地元の当事者仲間がやってくれるからロンドンに
行くことができる”　⇒帰国後に報告

院内ピアサポートのしくみを支援

1960年、岩手県生まれ。
1999年、宮城県仙台市に「いずみの社診療所」を開設。グループホーム「いずみの杜」、介護老人保健施設「いずみの杜」等を併設。
医療法人社団清山会理事長、社会福祉法人すばる理事長、医療法人社団眞友会理事長。
丹野さんと同行者のADIロンドン2022の現地参加に協力。2016年、スコットランド訪問に参加し、日本の伝統的な作務衣姿で好評を博す。

その国と人につなぐ：交流と人脈、個人の危さも

英国アルツハイマー病協会 訪問インタビュー

『認知症と共創ガイド』
２０２２年
５月刊行

2022年12月　台北　ADIアジア太平洋地域会議

2017年　台北　ラン伴大使として講演経験

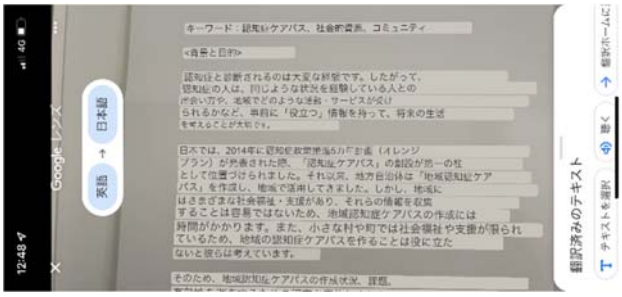
テクノロジーにつなぐ：自信と自立

- 英語が読めない
  ⇒Google翻訳を使う

「こんな翻訳機能がありますよ」と聞いた私は、カメラ入力を使うことで読むことが出来ました。

これはポスター発表をGoogle翻訳で見た時の写真です

（丹野智文　ADI報告書　より）



「合理的配慮」としての通訳

会議後にふりかえり、丹野さんが腕章を作成
次回使用予定

「通訳が必要です」

「通訳です」

黒子の悩み

・ある理事の吐露
「Living Well よく生きるだけですむなら、なぜ私たちはここにいるのか？Atypicalな特殊事例が目立ちすぎている。」

・本人意思決定支援 Mental Capacity Act、愚行権 Rights of Stupidity の発動を、権利施行者はどこまで抱えられるか。双方にとって「合理的」な配慮の実際とは？

・本人が上げた声を聴く→コロナを経て、共創の時代へ
その具体的なありかたとは？

認知症の当事者運動はどこから始まったのか？

ー日本と海外をつなぐ視点からー

日本での伏線

- **1995年、地方の時代映像祭・優秀賞受賞**
  『心を開いて 笑顔を見せて』奥田ディレクター
  出雲の精神科クリニック（高橋幸男医師）に併設する
  重度認知症デイケア「小山のおうち」の活動記録。

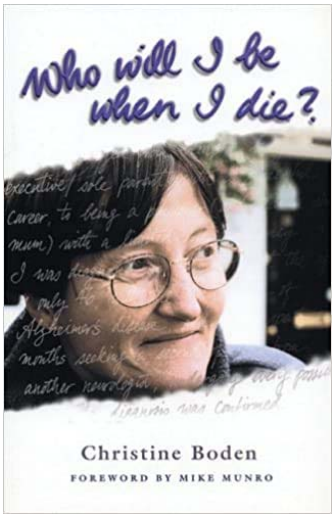
  認知症になって、妄想や徘徊、暴力などが現れ、
  家族から、もはや何も出来ず、意思疎通不能になったと思われていた人たちが
  変容していく。家族が「小山のおうち」に見学に来て、
  自分たちの関わり方を変え、心の通い合いを取り戻していく・・・。

- **１９９８年、『痴呆老人から見た世界』小澤勲**
  認知症の人々の医療・ケアの現場で約３０年を過ごした
  精神科医の記録と洞察。クリスティーン・ブライデンの第一紹介者となる
- **2000年、介護保険が施行**

ADIクライストチャーチ2001（ニュージーランド）

クリスティーン・ブライデン

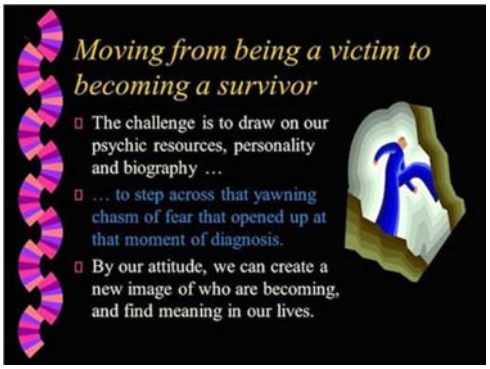
本人として初めて発表



認知症の被害者から
サバイバーになる

私たち自身の姿勢をもって
認知症とともに変わっていく
自分の新しいイメージを作る

そうやって生きる意味を
見つけていく



発表を深く聴く

小山のおうちで活躍していた石橋さんは、精神科病院の看護師も経験しているが。英語は苦手とのこと。
ニュージーランドまでADI会議に来たのだし、ひとつぐらい話を聞いて帰ろうと、会場に入ると、ちょうど始まったところで、しかも満員。

持参したビデオカメラを回し始め、映しだされるスライドを見ると、直観したという。
「この人は自分と同じことを言っている」。
聴衆が一斉に立ち上がり、長い拍手。感動して泣く人も。長い行列について本を買い求め、握手した。

帰国後、「川村さん、この人は一体どういう人なの？」
裏表紙を読むと、46歳でアルツハイマーと診断された患者さんですね。」

「私はお年寄りに手記を書いてもらってみんなの前で読んでもらっているけれど、アルツハイマーの人があんな長い文章を書いて、見事に語るのは考えられない。」
進行した認知症の人のケアの達人の率直な感覚。

「では、家に通訳がいますから、一緒に行って訳してもらったらどうでしょう？」

石橋典子さん

映像を再生してみると、辛うじてスライドの文字ははっきりと読めた。
（認知症の）「犠牲者からサバイバーへ」。最後の一枚は、日の出のイラストに「希望の地平線」。

当時、私・黒子は第一子の臨月。一冊訳すことなどできず、内容紹介と目次だけ、お手伝いを決めた。
予定日の朝、カセットテープと手書きのメモを速達で石橋さんに投函してもらう。
その報告の電話中に破水して同日出産。

その後、石橋さんは、職員ミーティングでテープを真ん中に置き、皆とくりかえし聞いてくださったという。

一年ぐらい経ち、「子連れでもいいから」と呼んでいただき、朝のミーティングに参加した。

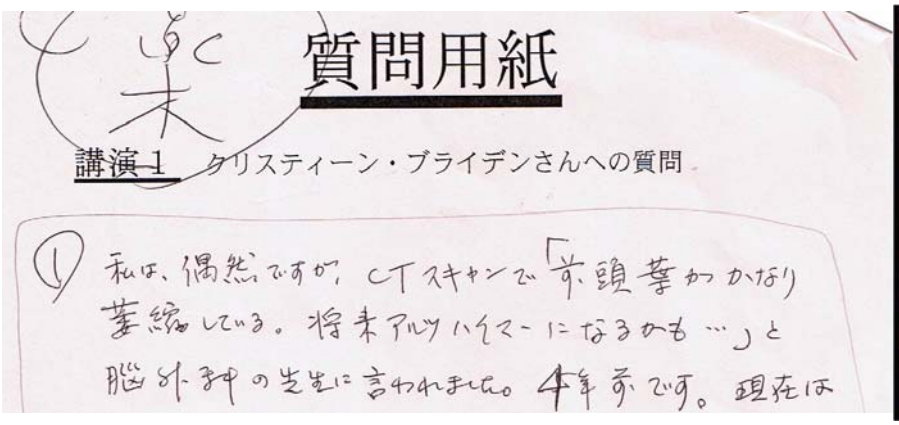
2002年、石橋さんと川村さんは、オーストラリアまでクリスティーンを訪問。

翌2003年、クリスティーンと夫のポールは来日を果たす。

2003年 クリスティーン・ブライデン来日

松江講演：「“痴呆を生きる私たち”が見た痴呆症診断」

岡山講演：「内側から見た認知症」



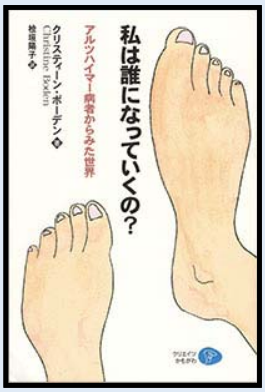
質問用紙

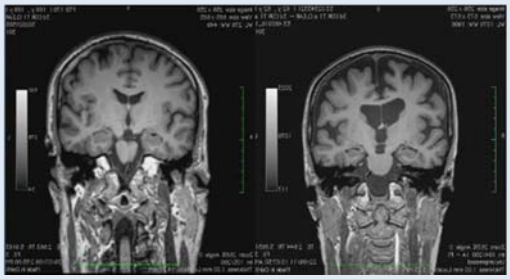
講演1　クリスティーン・ブライデンさんへの質問

① 私は、偶然ですが、CTスキャンで「前頭葉がかなり萎縮している。将来アルツハイマーになるかも…」と脳外科の先生に言われました。4年です。現在は

クリスティーン・ブライデン

１９４９年　イギリス生まれ。（のちにオーストラリアに渡る）
～～～～～
１９９５年　**４６歳でアルツハイマー病の診断**を受ける。
１９９６年　オーストラリア政府の**首相内閣省第一次官補を退職**。
１９９８年　**前頭側頭型認知症と再診断**。８月、１冊目の手記を出版。
１９９９年　**ポール・ブライデンと再婚**、クリスティーン・ボーデンからブライデンに改姓。
２０００年　認知症擁護支援ネットワーク（ＤＡＳＮ）を結成。（翌年、**ＤＡＳＮＩ**になる）
２００３年　認知症の人として初めて**国際アルツハイマー病協会ADI理事**になる。
　　一冊目手記邦訳**『私は誰になっていくの？』**
２００４年　ADI京都２００４に参加するため来日。二冊目手記邦訳**『私は私になっていく』**
～～～～
２０１４年　オーストラリアTV『オーストラリアン・ストーリー』に出演、大きな反響。
２０１６年　大英帝国連邦国のオーストラリア勲章**MA**（メンバー章）を受勲。
２０１７年　ADI京都２０１７に参加するため来日。４冊目手記邦訳**『認知症とともに生きる私』**
２０１８年　スタート大学神学部博士課程修了。**神学博士**号授与。論文を出版。邦訳予定。





当初、出版は、誤診批判との闘いだった

右がクリスティーンのMRI、2014年
想定年齢１００歳とも言われるほどの萎縮

第一紹介者：小澤勲先生

「クリスティーン、あなたに会いたかったぁ。禿げる前に！！」
認知症サバイバー　＆　がんサバイバー

2003年　『痴呆を生きるということ』岩波新書
2004年　『物語としての痴呆ケア』
2008年　がんのため他界

認知症当事者活動の黎明期
クリスティーンが登場する番組

NHK　（いづれも川村PDが制作）
2003年11月　クローズアップ現代「痴呆の人　心の世界を語る」聞き手：国谷
2003年12月　生活ほっとモーニング「痴呆ケア　本人が語る心の世界」
2004年10月　BSドキュメンタリー「クリスティーンとポール」
2004年11月　福祉ネットワーク「ADI京都会議から②」
　生活ほっとモーニング「クリスティーンとその家族」
2005年３月　こころの時代「今　平安の日々　小澤勲」
2008年11月　ETV特集「長すぎる休日　若年認知症を生きる」
2009年2月　クローズアップ現代「認知症　広がるか“本人が決めるケア”」
2010年5月　こころの時代「“する人”から“なる人”へ
看護師・牧師　エリザベス・マッキンレー」

番組を制作

川村雄次（かわむら・ゆうじ）　NHKディレクター

主な番組：『１６本目の“水俣”　記録映画監督　土本典昭』（1992年）など。認知症については、『クリスティーンとポール　私は私になっていく』（2004年）制作を機に約５０本を制作。ＤＶＤ『認知症ケア』全３巻（2013年、日本ジャーナリスト協会賞　映像部門大賞）は、ＮＨＫ厚生文化事業団で無料貸出中

参考：連載「「視線の病」としての認知症」

NeoNeoドキュメンタリーカルチャーマガジン（更新予定あり）

http://webneo.org/archives/tag/%e3%80%8c%e8%a6%96%e7%b7%9a%e3%81%ae%e7%97%85%e3%80%8d%e3%81%a8%e3%81%97%e3%81%a6%e3%81%ae%e8%aa%8d%e7%9f%a5%e7%97%87

スピリチュアル・ガイド

エリザベス・マッキンレー
牧師、看護師、神学者、チャプレン。
セントマークス国立神学センター
「高齢化および牧会研究センター」所長
チャールズ・スタート大学神学部
名誉教授。
1995年、46歳で認知症と診断された
クリスティーン・ブライデンの相談相手と
なり、その深い対話からクリスティーンの
著書『私は誰になっていくの？』が生まれ、
「認知症のスピリチュアル回想法」が
できあがった。
２０１０年、来日して講演を行う。

「指令」：“スコットランドに行って！”

２０１２年、東日本大震災がら一年、
オーストラリアに行って会いたいと
伝えると、
「オーストラリアは政権交代で
福祉予算が削られてよくない。
ここに来てはダメ。
それよりもスコットランドに行って！
認知症の本人が１２０以上人いる、
本人のグループがあるから。
スコットランド認知症ワーキング
グループと言うのよ。」

BGM:　*Mission Impossible*

ケイト・スワファーとマーク・ウォートマン

ADI台北2013 × 障害者権利条約

クリスティーンらが立ち上げた国際認知症啓発支援ネットワーク（DASNI）は自然消滅。

⇒国際認知症当事者同盟（DAI）の設立、

2015年には、認知症の人として初めて国連で演説、

障害者権利を訴えている。体調変化による疲労と、変わらない現状に対する失望から、今年6月にADIを離れる。

オランダのアルツハイマー病協会出身。

当事者権利意識が強く、国際協会の事務局長として

CRPD障害者権利、高齢者権利の二本立てで、国連にロビイング

2017年、WHOの認知症アクションプラン開始を見届け

事務局を降りる。２０２２年8月に急逝。

世界各国から追悼の言葉が送られた。

ADI台北2013 × スコットランド

Charity boss Jim Pearson

万を持して、台湾・台北で開かれたADI台北２０１３。

国際会議開催をテコに、開催国の認知症政策の

進展を実現させた。

中国語なまりのピンイン英語が飛び交う発表。

会議の終わりかけ、人影もまばらな休憩コーナーには

食べ飽きた飲茶。

ひとりポツンと口に運ぶ、金髪のとても大きな男性。

話しかけてみると、スコットランド・

アルツハイマー協会（人権チャリティーNPO)の

幹部、ジム・ピアソンだった。

「どうして、ボクの英語、わかるの？」

「あの、なんとか7割ぐらい、、、」

スコットランドの認知症活動を知る

- 認知症の**本人だけのグループ**があり、**１３０名**近く登録している。
  活発に活動して、いくつかの委員会もある。

- そのグループが本人の声を上げ、スコットランドの認知症政策に
  参画し、**認知症の診断後一年間支援を保障する制度**ができた。

- 診断後支援を確実にするため、**リンクワーカー**というものがある。

- これらを支える理念として、**5つの柱のモデル**がある。

「**来るなら、協力するよ。**それから、映画『ブレイブ・ハート』は
見るな。あれはハリウッドであって、スコティッシュじゃない！」

スコットランド認知症ワーキンググループSDWG

初代SDWG議長
ジェームス・マキロップ **MBE**
ワーキングで工夫して生み出した
「発言したいです」のカードを手にして

ジェームズ・マキロップ

スコットランド・グラスゴー在住、８０歳。
59歳の時に脳血管性の認知症と診断される。
2002年、世界初の認知症当事者活動団体
スコットランド認知症ワーキンググループを結成、初代議長。
認知症のアドボカシー（権利擁護）活動に取り組み、
　スコットランド自治政府との対話を実現し、当事者の声を
　政策に反映させた。
2011年、ビートルズと同じ大英帝国勲章MBEを受章。
現在は個人としての講演活動を通じて
「認知症とともによく生きる」生き方を実践している。
趣味は、チャリティ・リサイクルショップめぐり。

ジェームズを励ました三人の女性

ブレンダ・ヴィンセント
スコットランドアルツハイマー協会
職員（当時）

モーリーン・マキロップ
妻

ヘザー・ウィルキンソン
研究者
現在　エディンバラ大学教授

活動内容：ADIロンドン2011発表（1）

the scottish dementia working group

run by people with dementia

2011年　ADI国際会議（ロンドン）での発表より

Our Achievements
成し遂げたこと

Raising awareness
Talks & Conference presentations

Using the media

啓発活動
講演や会議　　メディアを使う

Alzheimer Scotland Action on Dementia

活動内容:メディアを使う

「私たちはバカではない」

活動内容：ADIロンドン2011発表（2）

2009 - Scotland's First Minister, Alex Salmond & Henry Simmons, Chief Executive, Alzheimer Scotland

自治政府の政治家と意見交換

2010 – Shona Robison, Minister for Public Health

2011 – launch of Care Standards with Deputy First Minister, Nicola Sturgeon

活動内容：ADIロンドン2011発表（3）

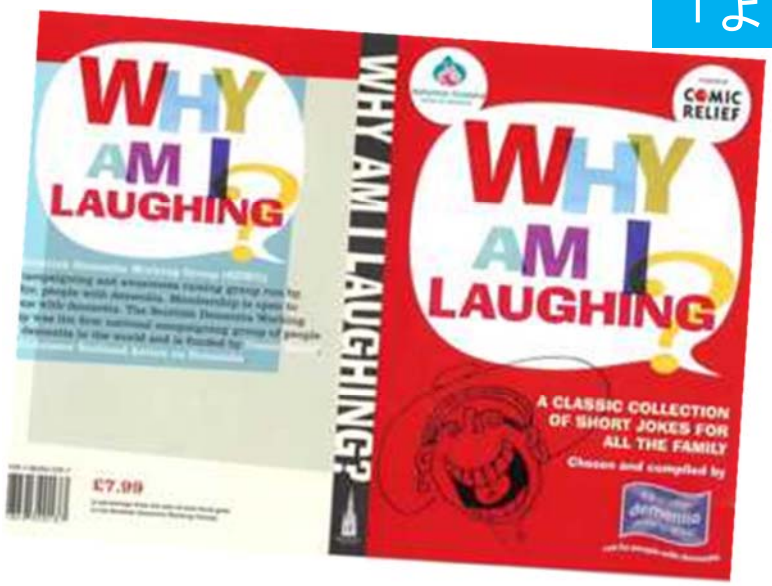
2009年　認知症戦略策定に参画

Alzheimer Scotland
Action on Dementia

意見を求めるのなら「わかりやすい言葉」で
説明していただきたい！

活動内容：一日ージョーク！

「よく生きる」ための情報提供



出版物
診断された本人のためのガイドブック
ジョーク集

（例）
Q:　車が大好きな国の国花は？
A:　カーネーション
　　カー・ネーション（車の国）

Q:　父さんトマト、母さんトマトは
　　後からくる子どもトマトに何と言う？
A:　“ケチャップ！”
　　→キャッチ・アップ（追いつく）

リンク・ワーカー

NHK：2014年
クローズアップ現代「初期認知症と言われたけれど」

元祖リンクワーカー　トレーシー・ギルモア

「希望の持てる明日への計画」

「私たち抜きに私たちのことを決めないで」

NHK：2014年　ＥＴＶ特集
「私たち抜きに私たちのことを決めないで　初期認知症と生きる」
偶然にもスコットランドが世界に注目された、独立住民投票の翌日に放映

スコットランド認知症ワーキンググループ

2014　日本認知症ワーキンググループ発足

私は認知症 声届けたい
当事者だけの団体発足
政策提言 機会求める
診断7年 工夫重ねて家事もできる

2014年10月11日　発足

３年後の2017年に、一般社団法人化。日本認知症本人ワーキンググループと名称を改める。

2018年11月1日、厚生労働省内で記者会見し「認知症とともに生きる希望宣言」を表明。

現在は、各地で認知症希望大使が任命され、オンラインで交流会も実施されるなど、さまざまな活動を展開している。

（一社）日本認知症本人ワーキンググループ

藤田和子（ふじた・かずこ）
一般社団法人　日本認知症本人ワーキンググループ代表理事。
1961年生まれ。鳥取市在住。看護師として働いていた45歳の時にアルツハイマー病と診断される。
診断直後から、認知症の本人たちが前向きに生き、仲間をつくり、社会に参加していくための活動を続けている。

永田久美子（ながた・くみこ）

一般社団法人　日本認知症本人ワーキンググループ

副代表理事。

認知症介護研究・研修東京センター 研究部長

1960 年新潟県三条市生まれ。 千葉大学大学院看護学研究科修了。学生時代から地域や病院、施設で認知症の人と家族を支援する活動と研究を続けてきている。東京都老人総合研究所を経て、2000 年８月から東京センター勤務。

2015 ジェームズ&モーリーン マキロップ夫妻 来日

講演後、ロビーでジェームズが
登壇者の丹野智文さんに言った。
「君は僕の後ろを歩いてるんじゃあない。
僕と同じことを言っている。
一緒だ。（手振りで、「横並びだ」）

ジェームズが丹野さんを抱きしめると
二人とも涙があふれた。

「認知症があるとかないとか、関係ない、
オレは男としてジェームズが
好きだあ！」

「スコットランドに会いに行く！
久美子さんが何とかしてくれるでしょう！！」
（訳しながら絶句する黒子通訳）

活字にして伝える

生井 久美子（いくい・くみこ）

京都市生まれ。朝日新聞記者。上智大学文学部心理学科卒。1981年、朝日新聞社入社、仙台支局、政治部をへて学芸部、生活部などで医療、介護、福祉の現場を取材。編集委員、記事審査室の後、報道局夕刊企画班記者を経て、現在はフリーの立場から講演などを行っている。

2016 来日と訪英

認知症当事者ネットワーク支援
フィリー・ヘア

エディンバラ大学教授
ヘザー・ウィルキンソン

ETV特集
『認知症とともに　よく生きる旅へ
丹野智文　42歳』

英国メモリーウォーク
俳優のジョン・ミドルトンと

同行支援者の
若生栄子さん

2016 スコットランドで学んだこと（丹野さん）

丹野智文さん
「**自立：**
・グループの集まりに本人が一人で来ていた
・GPSは自分が迷子にならないように
自分のために自分でつけていた
・生活の工夫をたくさんしていた
権利：
・認知症の人にも権利がある」

スチュアート・ブラック
「私にとって今一番大切なものは、**運転免許**です。
それを失うと私は壊れるか？ 部分的には「イエス」です。**私が壊れるというより、魂が少しもぎとられる感じ**です。」

2017 ADI京都

ADI京都2017を4年後に振り返った
町永俊雄氏のコラム

https://www.ninchisho-forum.com/eyes/machinaga_175.html

会議直後に行われた当事者フォーラム

司会者としてすべてをつなぐ

町永俊雄（まちながとしお）

福祉ジャーナリスト
1947年東京都生まれ。
1971年ＮＨＫ入局。
「おはようジャーナル」キャスターとして教育、健康、福祉といった生活に関わる情報番組を担当。2004年からは「福祉ネットワーク」キャスターとして、うつ、認知症、自殺対策などの現代の福祉をテーマに、共生社会の在り方をめぐり各地でシンポジウムを開催。現在は、フリーの福祉ジャーナリストとして活動を続けている。

黒子とは、寄り添い、つなぐ者たち

だれもが黒子であり
だれひとりとして
黒子だけではありえない

黒子のさまざまな呼び名

支援者、伴走者、応援者、介助者、介護者、協力者
サポーター、パートナー、バディ（相方）、シャドウ（影）
フレンズ（仲間）、ナビゲーターなど

認知症共生社会の文脈では、
Co-producer:　協働者や、Co-creator: 共創者 のような
表現も登場

関係存在における視点・力点によって

黒子は無数にいる

●インスピレーション１：「我と汝」マルティン・ブーバー
「我とそれ」のゲゼルシャフト（利益社会）的関係から
「我と汝」のゲマインシャフト（共同社会）的関係に移行することで、現代の自己疎外を解消
相手を対象として一方的に捉えるのではなく、
相手と自分を関係性として捉えること、「わたしとあなた」
対話によってその「永遠のいぶき」を感じとることが不可欠　(wikiより)
ユダヤ神秘主義的な関係性の認識

●インスピレーション２：インタービーイング 相互存在 ティク・ナット・ハン
すべてのものはお互いに依りながら立ち現われて存在し合う
因縁生起、相以相即
大乗仏教の縁起にもとづく関係性の認識

黒子の動機

「どうしても出会ってしまう」、引き戻されてしまう展開

人間として、破格に素晴らしい、魅力のある「人たらし」に学ぶ

利他心のかたまり
「後から認知症になる人のために」
「声をあげられない人のためにも自分が声をあげる」
「ぼくはほんとうに君の役に立っているかな？」
「目の前のその人を笑顔にする」

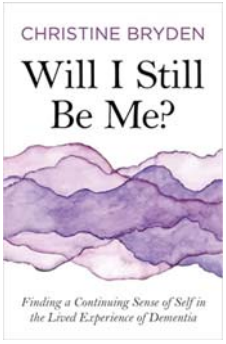
長い目で歴史を見た時に、意味のある、役に立つ感覚

黒子のトラップ

共依存
自己投影
隠れた承認要求
病的利他（ハリファックス）
過度なシャドーワーク

黒子の問い

黒衣を脱いだ私は誰になるのか？

クリスティーン・ブライデン

「私のゆくえ」（仮、未刊）